

Bancor プロトコル

スマートコントラクトを通じて、トークンの継続的な流動性を確保し、非同期的な価格発見を可能にするスマートトークンについて

Eyal Hertzog, Guy Benartzi & Galia Benartzi

May 30, 2017

訳者: 栗林 健太郎

原本: Draft Version 0.99

「欲求の二重一致問題」は、Jevons (1875) によって提起された。

取引は二者間で、かつ、その二者において処分可能な所有物がお互いの欲求を満たす場合に可能となる。欲求を抱く多くの人々が存在し、そして、欲求されるべき多くの所有物が存在する。しかし、現に取引が行われるためには、まれにしか起こらない、欲求の二重一致が必要になる。

目次

1	Bancor プロトコル	3
1.1	スマートトークン入門：流動性問題の解決策	3
1.2	価格発見の新手法	3
1.3	スマートトークンのユースケース	3
1.4	スマートトークンの利点	3
1.5	Bancor プロトコルのエコシステム	3
1.6	「欲求の二重一致問題」への解決策	3
2	Bprotocol ファウンデーション	3
2.1	Bancor Network Token (BNT)：初めてのスマートトークン	3
2.2	BNT をクラウドセールスする目的	3
3	トランザクションごとの価格計算	3
4	要約	3
5	謝辞	3

1 Bancor プロトコル

要約: *Bancor* (バンコール) プロトコルには、スマートコントラクト上のトークンのための、価格発見^{*1}と流動性を担保するメカニズムが備わっている。スマートトークンはひとつ以上のトークンを準備金として保有し、準備金としてのトークンと交換することで、誰もが即座にスマートトークンを購入したり、流動化したりすることができる。そしてそれは、スマートコントラクトを直接的に通じて行われ、継続的に計出される価格において取引される。その計算は、売買をバランスする公式に基づいて行われる。

Bancor プロトコルは、第二次世界大戦後、国際的な通貨の換算をシステム化するための、Bancor と呼ばれる超国家的な準備通貨の導入に関する、ケインズ経済学者 (たち) の提案^{*2} に敬意を表して名付けられた。

1.1 スマートトークン入門：流動性問題の解決策

1.2 価格発見の新手法

1.3 スマートトークンのユースケース

1.3.1 ユーザにより作成される通貨のロングテール

1.3.2 プロジェクトのクラウドファンディング

1.3.3 トークン交換所

1.3.4 非中央集権的なトークンバスケット

1.3.5 ネットワークトークン

1.4 スマートトークンの利点

1.5 Bancor プロトコルのエコシステム

1.6 「欲求の二重一致問題」への解決策

1.6.1 スマートトークンの初期化とカスタマイゼーション

2 Bprotocol ファウンデーション

2.1 Bancor Network Token (BNT)：初めてのスマートトークン

2.2 BNT をクラウドセールスする目的

3 トランザクションごとの価格計算

4 要約

5 謝辞

^{*1} https://en.wikipedia.org/wiki/Price_discovery

^{*2} <https://en.wikipedia.org/wiki/Bancor>